

Book Review

《眼科臨床エキスパート》 角結膜疾患の治療戦略 薬物治療と手術の最前線

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信 シリーズ編集 島崎 潤 編

治療法を適切に選択するためには、的確な診断が必要である。角結膜疾患の診断に関しては、《眼科臨床エキスパートシリーズ》で、『オキュラーサーフェス疾患——目で見える鑑別疾患』（2013）が既に出版されており、研修医の先生方から角膜を専門とする先生方まで、幅広く頻繁に利用されていることと思う。本書は《眼科臨床エキスパートシリーズ》のまさに角結膜疾患治療版である。本書は角膜移植のメッカである東京歯科大学眼科教授の島崎潤先生が編集されており、実にプラクティカルに構成されている。

まず、総説を熟読いただくことにより、現時点での角結膜疾患治療の基本的考え方と治療方針を理解できると同時に、本書のコンセプトと流れを把握できる。角結膜に共通の機能は外界に対するバリアとしての働き、角膜に特徴的な機能は透明性の維持と光の屈折であるということを大前提として、治療方針を考えてもらいたいという姿勢が十分に伝わる。読者にフレンドリーなイントロダクションである。

次に角結膜疾患の検査法の章を設けているが、検査法に関しても治療方針決定のための検査ということで、本書が治療に関する本であるというスタンスを貫いている。

その後、結膜疾患・角膜疾患の順に各論に移る。手術に関しては動画も参照できる点ありがたい。本書の特筆すべきところは、①それぞれの疾患について、病態を詳細に解説し、病態から治療を考えていくとい

うサイエンティフィックなスタイル、②内科的治療、外科的治療それぞれについて詳細に記述されているにとどまらず、内科的治療から外科的治療に移るべきタイミングなど、治療法の選択基準のロジックを詳述している点、と感じた。島崎先生が日頃から治療する際に病態の理解を大切に考えておられることを肌で感じることができる。実際、前掲書『オキュラーサーフェス疾患』の書評で島崎先生ご自身が、「専門医の診断技術の神髄は、その頭の中にあると思う。オキュラーサーフェスは診断や治療に頭を使う分野である。眼で見た所見と病歴を元に、頭の中で病態のストーリーを組み立て、それを元に治療計画を立てる。その過程こそが経験の差であり、単なるデータ量の問題ではない」と書かれており、本書のコンセプトが納得できた。

本書のもう一つの特徴は各論でトピックスのコーナーを設けている点であろう。現時点では日常の臨床では治療法として用いることができないが、将来的には非常に有望な治療ツールが挙げられている。5年、10年後にこれらの項目が新たに治療手段として加わってくるのだらうと思うとワクワクする。

高知大教授・眼科学
福島敦樹

B5・頁 424 2016 年 4 月
定価：本体 17,000 円＋税
[ISBN978-4-260-02504-1] 医学書院刊